

『コインチェック問題にみるダーク(闇)ウェブの強まる存在感』

文 佐々木寿郎

text by Toshiro Sasaki

今

年1月26日、仮想通貨取引所「コインチェック」から仮想通貨「NEM(ネム)」が流出しました。流出額は過去最大の約580億円分に上り、2014年に「マウントゴックス」が消失したビットコイン114億円分を遥かに超える損害額です。

NEMは独自のアルゴリズムを採用しており、利用者の一人ひとりを監視していません。当然ながら「コインチェック」からの流出後もその行方は追跡されていません。しかし、流出したNEMは既に400を超える口座に分散し、一部は行方が分からなくなっているようです。

報道機関によると、今回流出したNEMの一部が「ダーク(闇)ウェブ」上で取引された疑いがあるそうです。取引されたNEMは100億円超ともいわれ、流出させた犯人が、資金洗浄を目的に他の仮想通貨と取引しているものとみられています。

ダークウェブはその匿名性の高さから非合法的な取引の温床となつていきます。例えば、麻薬の密売やビットコインを用いた資金洗浄、偽造通貨の交換などです。ビットコインを代表とする仮想通貨の普及を背景に、ダークウェブの闇市場は年々拡大しているといわれています。

ただ、ダークウェブは単なる闇取引の場とは異なる見方もできます。それは、サイバー空間で悪意ある攻撃を行う者の動向を探る、情報収集の場としての見方です。

ダークウェブでは、ハッカーが大手企業から入手した企業秘密や個人情報が取引されることがあるうえ、取引に関する情報から大規模なクラッキング(サイバー攻撃)の予兆を察知することも可能です。

これまでサイバー空間で悪意ある攻撃から身を守るには、攻撃を受けた後に受け身の対応を取ることがほとんど

でした。しかし、弊社のような専門の企業がダークウェブを監視し、攻撃の予兆をモニタリングすることで、悪意ある攻撃への事前対策が可能になります。

Profile

シエンプレ株式会社 代表取締役社長
1976年、長野県生まれ
2009年 シエンプレ株式会社取締役に就任し、ネット上の風評被害対策、webリスク対策を立ち上げる
2012年 同社代表取締役に就任
2014年より警察庁のサイバーパトロール業務を受託し、
2015年には業界団体一般社団法人WEBリスク対策事業者協会を立ち上げ、代表理事に就任。業界の健全化に取り組んでいる

SIEMPLE

